

シナノキ

Tilia japonica

シナノキ科



シナノキ

名前の由来

樹皮がシナシナすることから。またはアイヌ語のシナ＝結ぶ、縛るから、とも言われるが反論もある。別名、アカジナ。漢字名：科(の)木、級(の)木

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種) 草花

(外来種) 草花

哺乳類

(水辺) 鳥類

(草原・樹林) 鳥類
ワシ・タカ

形態的特徴

山地に生える落葉樹、樹高20m。葉は心円形で長さ幅とも4～10cm、先は急に尾状にとがる、鋭鋸歯縁、基部は心形、無毛。花は淡黄色で径約1cm、6～7月に開花。長さ3～6cmの舌状の苞葉（花の近くにある変形した葉）がある。果実はやや球形で長さ約5mm、灰褐色で短毛を密生、10月頃に成熟。

類似種との見分け方：オオバボダイジュの冬芽や葉の裏には毛があるが、シナノキの冬芽や葉には毛がない。またオオバボダイジュの葉は長さ7～15cmと大きい。



シナノキの花

シナノキの花。良い蜂蜜のもととなる

シナノキの実。短い毛が密生している



シナノキの葉。鋭いギザギザ（鋭鋸歯）がある。毛はない



シナノキの樹形。幹が直立する傾向がある



シナノキの樹皮。上は若い木。やがて縦に浅く裂ける(下)



シナノキの冬芽。毛はない。7～10mm



シナノキの枝先の葉

生活サイクル

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
開花期			■									
結実期							■					

生育環境・分布

山麓部の林内。

分布：国外分布は、中国。国内分布は、北海道、本州、九州。北海道内分布は、全域。

十勝地方生育状況は、全域。

繁殖生態・寿命

花は6～7月に開花し、実は10月に成熟する。寿命200～300年

他生物との関わり

トラフシジミ幼虫の食樹となる。

種子は鳥や動物が食べる。鳥や動物に運ばれて種子分散する。

植栽関係

実生による。種子は2年後に発芽することが多い。挿し木等はできない。樹齢40年で、直径24cm、樹高10m、根系の最大深度200cm、根の広がり半径1.5m。根の支持力は強い。移植難易度は中程度。切り株からは萌芽することは少ない。土壌：壤土、適潤性～弱湿性、通気性は良好な場所、pHは耐アルカリ性、堅密度は堅い場所でも耐える。光は中性～陽性木。

興味深い話

■公園・街路樹、建築・器具材、ベニヤ材などに用いられる。材は木目が緻密で加工しやすく、建築、器具材、合板等に用いる。樹皮は繊維が強く耐水性があるため、しな布をつくり酒や醤油の漉し袋や蚊帳、船舶用ロープなど。花から取れる蜂蜜は香りがよく、重要な蜜の原料。

■十勝地方のアイヌ語では「クペルケブニ」という。

■足寄ではシナノキの内皮を「クペルケブ」という。他地方ではシナノキを「ニペシニ」ともいい、「ニペシ」はシナノキの内皮。上川アイヌは、丈夫で柔らかくしなしなとしたシナノキの内皮で、縄や糸をつくった。家を立てる時は、大量のシナノキの皮を用意し、木組のときの縄とする。

配慮事項

樹齢40年で、直径24cm、樹高10m、根系の最大深度200cm、根の広がり半径1.5m。根の支持力は強い。移植難易度は中程度。切り株からは萌芽することは少ない。



シナノキの枝先。ふもとあたりの林の中に生育する



シナノキ。しなりやすい性質から樹皮が縄に用いられる

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種) 草花

(外来種) 草花

哺乳類

(水辺) 鳥類

(草原・樹林) 鳥類
ワシ・タカ

参考文献

「図説花と樹の大事典」木村陽二郎 監修 植物文化研究会・雅麗 編集 柏書房 1996

「アイヌ植物誌」福岡イト子 草風館 1995

「新装版 樹木根系図説」苅住昇 誠文堂新光社 1987

「天然林施業Q&A」石塚森吉ら 北方林業会編 pp.107-108 1988

「北海道 庭と庭木のすべて」原秀雄・須田輝 北海道新聞社 1978

「北海道樹木図鑑」佐藤孝夫 亜細亜社 1990

「北海道主要樹木図譜」宮部金吾・工藤祐舜 北大図書刊行会 1986

「新版 北海道の樹」辻井達一・梅沢俊・佐藤孝夫 北海道大学図書刊行会 1992

「北見の蝶」木村辰正 北見市教育委員会 1994

「森林で遊ぼうシリーズ1 おもしろい木の話」北海道立林業試験場 監修 北海道林業普及協会 1996

「知里真志保著作集 別巻I 植物編・動物編」知里真志保、平凡社、1976

萌芽更新を利用した広葉樹の施業 佐藤俊彦 年一巻号：光珠内季報 1999-116 p:14~p:17